



# タラノア対話：ボン会合の成果と展望

2018年6月14日

大井 通博（環境省）

# タラノア対話とは①

## COP21決定1（2015） パラグラフ20

2018年に「促進的な対話」(facilitative dialogue)を実施する

- ①パリ協定4条1項の長期目標（可能な限り早期の排出ピークアウト⇒今世紀後半の排出と吸収のバランスに向けて急激に削減）に向けた努力に関する進捗の総点検（take stock）
- ②各国が定める目標（NDC）の準備状況の情報共有を目的とする。

※当時、パリ協定は「2020年以降の枠組み」と想定し、施行までの間の緩和（排出削減）に関する準備プロセスとして位置付け



## COP23決定1（2017） パラ10,11,16,Annex II

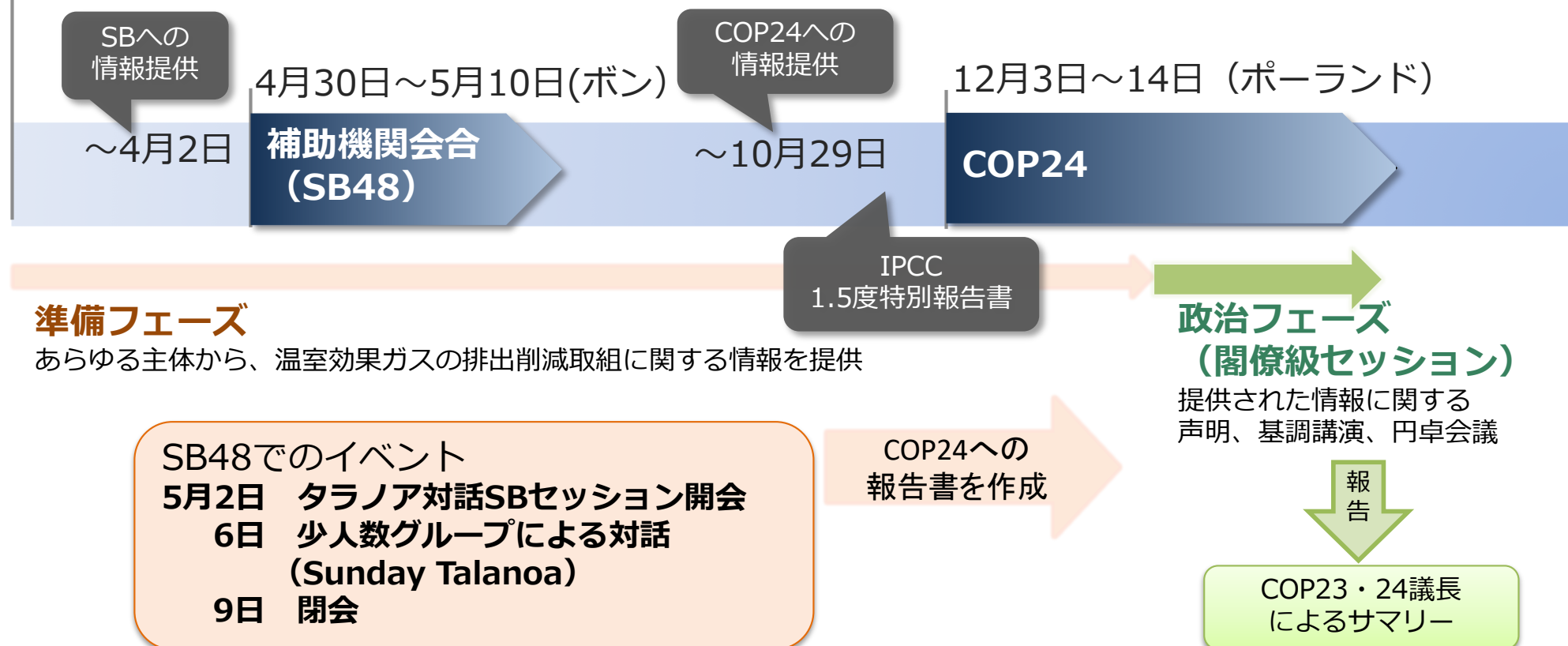
- ✓ COP22議長（モロッコ）及びCOP23議長（フィジー）の提案を歓迎し2018年1月に「タラノア対話」を開始
- ✓ タラノア対話は、2020年までの行動と支援（action and support）に関する各国の努力を、要素の一つとして、考慮する

※COP21の決定を受けつつ、プレ2020野心向上の作業ともリンクさせてスコープを拡大。

## タラノア対話とは②

- フィジーの言葉で「包摂的・参加型・透明な対話プロセス」を意味する
- パリ協定の2度目標の達成に資する世界中の優良事例を共有する取組。
- あらゆるステークホルダーの温室効果ガス排出削減を促進することを目指す。
- 3つの論点について議論
  - ①今我々はどこにいるのか (Where are we) ?
  - ②どこへ行きたいか (Where do we want to go) ?
  - ③どのように行くのか (How do we get there) ?

2018年1月 開始



## SB48 サンデイ・タラノア対話（5月6日）

- のべ250名以上の参加者が7つのグループに別れ、三つの論点に関して700以上のストーリー（経験やアイディア）を共有。
- 批判に陥らず、建設的な意見交換をおこなうというタラノアを尊重し、前向きな雰囲気の中で対話を実施。

- ✓ 各グループ35人の代表者（国や都市・自治体、企業等）で構成、フィジー政府職員による進行
- ✓ 三つの論点ごとに参加者からのストーリーの共有・意見交換、ファシリテーターまたは報告担当者による簡単なまとめの発表、という形で構成
- ✓ 各グループの参加者リストや録画は下記リンクより閲覧可能



Photo by IISD/ENB | Kiara Worth

<https://talanoadialogue.com/sunday-talanoas>

## ①今我々はどこにいるのか（Where are we）？

- ✓ 現状の温室効果ガスの排出量やその大気中濃度への言及
- ✓ 異常気象、水やエネルギーへのアクセスの悪化、安全保障への影響、海面上昇による移住など、具体的な気候変動の悪影響の顕在化
- ✓ パリ協定の長期目標の達成には、現状の国別目標（NDC）では不十分

→多くの参加者が問題の緊迫性、取り組みの緊急性を訴え

- ✓ 国や自治体、企業等による国内外の取組み、開発政策と気候変動政策の位置づけ、省庁間の協力体制の構築、長期戦略の策定、伝統的知識利用などに関する具体的な例

→さまざまアクターがそれぞれの取り組みを真摯に進めていることについて具体例をもって語り合うことで、建設的な雰囲気を作り出す。

- ✓ 適応策を含め、途上国への更なる支援が必要
- ✓ 衡平性や共通だが差異ある責任（CBDR）原則の重要性

→引き続き、途上国支援の重要について指摘があった。

### ②どこへ行きたいか（Where do we want to go）？

- ✓ パリ協定の長期温度目標（2°C目標や1.5°C目標）や、それに即した脱炭素化、炭素中立化、気候変動に対する強靭性・適応能力の強化を目指すべき
- ✓ 持続可能な開発や経済発展、人間開発、生態系など、幅広い側面を含んだ包括的・網羅的なビジョンの重要性
- ✓ 地域的取組みやジェンダー・若者の参画についても扱うことの必要性
- ✓ 各国、都市・自治体、企業が掲げる中期・長期的な排出削減目標、およびそれらに向けた戦略や計画の重要性

→社会全体の発展計画や国家戦略の中で大幅な排出削減や脱炭素化・炭素中立化を目指す姿勢の重要性を多くの参加者が指摘

### ③どのように行くのか（How do we get there）？

- ✓ すべてのアクターが共に行動することにコミットすることが不可欠。そうした行動を引き出すための政治的リーダーシップの重要性。
- ✓ カーボンプライスなどの経済的措置の重要性。
- ✓ 技術革新やそれを生み出すための国際協力の重要性、民間資金の動員を促す公的資金の活用など

→多くのストーリーの根底に流れる二つのテーマ

- 野心的な気候変動政策が不可欠であり、その策定・実施にあたっては社会的正義、包括性、参加が重要な要素となる。
- 連帯や信頼醸成に基づく国際および国内レベルの施策・協力が必要である。

- ✓ 脱炭素化に向けた転換は、社会の仕組みや経済構造を大きく変えていくことが必要。

→そのような転換を「誰も取り残されない」形で成し遂げていこうという考え方も共有された。

## サンデイ・タラノアの結果④ 日本の対応

国内の気候変動対策や排出量削減実績、途上国への資金支援の進捗状況、コ・イノベーション、イノベーション推進や長期戦略策定に向けた決意などを共有。

### 今どこにいるのか？

- 排出削減目標（NDC）：FY2013年比でFY2030年に26%削減（2050年に80%削減）
- 地球温暖化対策計画（2016年5月閣議決定）
- 削減実績：FY2016年にFY2013年比7.3%の総排出量削減、GDP当たり排出量は2013年比10%以上改善
- 資金・技術・キャパビルの途上国支援（ODA/民間）
- 日本版タラノアサイトの紹介

### どこへ行きたいか？

- パリ協定の目標と日本の削減目標：世界全体での脱炭素社会実現、経済成長とGHG排出量削減の同時達成、社会的転換と気候Resilientな社会構築
- 「コ・イノベーション」とその具体例の紹介（JCMによるベトナムの高効率変圧器の普及）
- 透明性の重要性と向上支援：「見える化パートナーシップ」

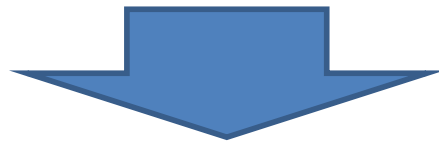
### どのように行くのか？

- イノベーションの促進：革新的技術のR&D、世界市場への低炭素製品・サービスの提供
- 非政府主体の目標設定と取組の重要性  
企業－SBT
- 計画と実施のPDCAサイクル：  
日本の温対計画3年ごと見直し（次回2019年）
- 漸進するパリ協定に則り国内外での野心引き上げに努力



## 今後の予定

- ①サンデイ・タラノア報告書（近日中公表？）
- ②各国、機関等の更なるインプット（10月29日まで）  
※誰でもインプットが可能 <https://talanoadialogue.com/>
- ③IPCC1.5°C目標に関する特別報告書（10月）



COP24 政治フェーズ（12月）  
閣僚級ラウンドテーブル 等

その後は？（2020年までの野心向上作業、グローバル・ストックテイク？）

# 日本版タラノア対話プラットフォーム

タラノア ● JAPAN

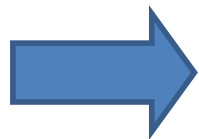
未来を拓く、あなたの温暖化対策 優良事例ポータル

気候変動対策に取り組む企業、自治体、NGO等の取組事例を国内外に共有するためのポータルサイト。

<http://copjapan.env.go.jp/talanoa/>

<https://www.facebook.com/talanoajapan/>

- ①タラノア対話の3つの論点に沿った取組の優良事例を募集  
(取組の今、目標、目標に向かう方法など。フォーマットあり)
- ②提供いただいた取組事例をポータルサイトに掲載し、国内外に発信
- ③取組事例の一部は政府でとりまとめ、気候変動枠組条約（UNFCCC）のタラノア対話公式プラットフォームに日本の取組として情報提供



あらゆるステークホルダーの取組を促進

皆さまの優良事例の発信のため、  
タラノア対話ポータルをぜひご活用ください。